

| 対象 | 内容 | 意見等 | 事務局の対応 |
|-------------------------|--------|---|--|
| 1 全体 | 評価への意見 | 昨今のコロナウイルスのように情勢の変化が考えられる。中間目標や見直しは設定しないのか。 | 上位計画である第三次環境基本計画や第七次総合計画と調整しながら、検討する。 |
| 2 全体 数値目標 | 評価への意見 | 世の中の環境が変われば目標の数値が変わるものもあるかと思うので、数値設定時の状況を記載する必要はないか。 | 必要に応じて検討する。 |
| 3 全体 数値目標 | 記載方法 | 数値目標の目標値に関する目標年度の設定がR4年からR17年とばらつきがあるのは何故か。 | 担当課の目標年度から引用しているため、ばらばらになっている。次期短期的目標の最終段階で最新の目標値と目標年度を記載する。 |
| 4 全体 数値目標 | 記載方法 | 数値目標の目標値が記入されていないのは何故か。 | 素案の状況で、担当課との調整中であるため、調整後に記載する。 |
| 5 全体 | 状況確認 | 国や県などの他の計画との整合性を取る必要がある。国や県の動向を事務局は把握しているのか。 | 国の国家戦略については、来年度開催予定の国際会議以降に見直しを実施する予定であることを把握している。国家戦略の状況を確認し、大幅に目標が変更になる場合には、必要に応じて短期的目標などの見直しを実施する。 |
| 6 短期的目標 (資料3-1) | 評価への意見 | 2020年度短期的目標の中で、「生物多様性保全に係る総合的・計画的な施策体系が確立されている」について、達成されているため、2030年度短期的目標からは削除することであるが、「維持していく」必要があるため、内容を変更して残す必要があるのではないのか。 | 「生物多様性保全に係る総合的・計画的な施策体系の確立」については、毎年審議会を開催し、進捗管理を行うことにより2050年度目標に向けて推進していることから、短期的目標からは削除するが、継続して実施する。 |
| 7 数値目標 | 評価への意見 | 評価の項目に食品ロスやPM2.5など、関係する内容を追加したらどうか。 | 食品ロスやPM2.5については、上位計画である第三次環境基本計画や第七次総合計画において項目に挙げて総合的に対応するため、生物多様性地域戦略の評価項目としては、挙げないこととする。 |
| 8 基本目標1、 3、4 SDGs | 記載内容 | SDGsの記載で、基本目標1に目標の4、基本目標3に目標12、基本目標4に目標4が必要ではないか。 | 指摘いただいた、SDGsの目標を追加することで検討する。 |
| 9 数値目標1-2 | 状況確認 | 数値目標1-2の市民参加型生き物調査の評価を報告件数としているが、どのようなやり方で集計するのか。 | 報告方法としては、ホームページに生き物調査用の報告様式を作り、入力フォームやe-mailなどで環境政策課に直接報告を受ける予定である。また、報告対象は、自然史博物館などと協議したうえで、市民参加型の生き物調査にふさわしい生き物を選定する。 |
| 10 数値目標1-4 | 評価への意見 | 基本目標1の短期的目標(2)の評価項目が、数値目標1-4の自然史博物館の標本登録件数だけになっているが、他の項目を追加しなくてもよいのか。 | 短期的目標(2)の指標として、数値目標として挙げられる項目としては、現時点で1-4のみと考えている。有効な指標があればご教示いただきたい。 また、短期的目標(2)の指標としては、1項目であるが、評価は基本目標1に対して総合的に評価したいと考えているため、数値目標としては4項目あり、総合的な評価は可能と考える。 |

| 対象 | 内容 | 意見等 | 事務局の対応 | |
|----|-----------------|------------|---|--|
| 11 | 数値目標 1-A、2-D | 評価への 意見 | 数値目標1-Aの河川・水辺の国勢調査、2-Dのレッドデータブックの倉敷市内の確認件数については、どのような生物種が増えたか減ったかわかるように記載してほしい。次の総合評価で検討ができるように。 | 数値目標としては、種数で管理させていただきたい。 詳細なデータの使用目的は、評価時の解析用であるため、外部データとして添付し、把握できるようにする。 |
| 12 | 数値目標1-A | 評価への 意見 | 数値目標1-Aの評価方法は、指標種を決めて評価したらどうか。 | 同上 |
| 13 | 数値目標1-A | 評価への 意見 | 数値目標1-Aは河川・水辺の国勢調査結果の魚類のみ引用しているが、他の種についても調査結果があるので、魚類以外も入れたらどうか。 | 魚類以外に、底生動物、植物、鳥類、両爬虫類、陸上昆虫類がある。数値目標の項目としては、魚類と底生動物(河川内の生き物)とさせていただきたい。 他の項目については外部データとして記載し、2030年度短期的目標の評価を実施するときに使用することとする。 |
| 14 | 基本目標2 | 評価への 意見 | 海岸がどのような状況であるか把握するような仕組みづくりを検討すること。 | 国、県から情報を集め、評価方法について検討する。 (現時点で、県、市で情報を確認したが、海岸線のデータを把握している部署はなかった。国土交通省が「海岸統計」を毎年実施しているが、倉敷市内の情報は、島(松島)の情報しかないとのこと。) |
| 15 | 数値目標2-2 | 状況確認 | 生物多様性には、温暖化は影響があるため、今後の見通しがあれば教えてほしい。 | 本市の対策については、地球温暖化対策室で計画を作成し推進している状況である。 |
| 16 | 数値目標2-7 | 評価への 意見 | 数値目標2-7特定外来生物(ヒアリ、アカカミアリ、アルゼンチンアリ)の報告件数を挙げているが特定外来生物以外の外来種も評価項目に追加したらどうか。 | 特定外来生物以外の外来種については、倉敷市において状況を把握できていない。 河川・水辺の国勢調査では、外来種も含めて確認できた種を集計しているため、このデータを外部データとして記載し、2030年度短期的目標の評価を実施するときに使用することとする。 |
| 17 | 数値目標2-7 | 評価への 意見 | 数値目標2-7は本来、確認件数が0件であることが望ましいと考える。基準値が1件であるが、目標値は現状維持でいいのか。 | 目標値は0件に修正する。 |
| 18 | 数値目標2-D | 評価への 意見 | 数値目標2-Dは、2-7と同様に、目標値が「現状維持」となるのはおかしいのではないのか。 | レッドデータブックに記載される種数は、増えないのが望ましいと考える。また、倉敷市内の確認件数は、過去からの文献等での確認件数になっており、現在の状況を把握しているものではないため、「現状維持」とさせていただきたい。 |
| 19 | 数値目標3-3 | 状況確認 | 数値目標3-3の新規就農者数の目標値の120人は、単年度の目標値なのか、累計の目標値なのか。 | 目標値は累計の人数になる。 |
| 20 | 数値目標3-6 | 状況確認 | 数値目標3-6の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合が減っている状況である。倉敷市から企業に対して情報を発信したり、企業からの情報を収集しているのか。 | 情報収集は、隔年で実施するアンケートにより各企業の取り組みを確認している。 情報発信としては、企業に対してアンケートを実施する際に、「グリーンらしきアクションプラン～事業者編～」のパンフレットなど倉敷市として企業に取り組んでほしい内容を紹介している。 |
| 21 | 基本目標4 数値目標 | 評価への 意見 | 基本目標4の取り組みで②と④については、数値目標がない。これに関して具体的な数値目標は設定しないのか。 | 取り組みのうち、②と④については、具体的な数値目標の項目がなかったため、挙げていない。数値目標としては項目がないが、2030年度の評価では、実施事業を含めて総合的に評価する予定である。 |
| 22 | 基本目標4 数値目標 | 評価への 意見 | 数値目標4-3の子どもを対象とした出前講座受講者数、4-5のエコツアーの件数などの項目については、参加者の年齢を確認したらどうか。多様な参加者が参加していることが分かれば、SDGsの目的にも合うのではないのか。 | 参加者の学年や年齢の内訳などについて、確認可能な項目については、解析資料として外部データに追記する。 |
| 23 | 基本目標4 数値目標 | 評価への 意見 | 数値目標に出てくる「子ども」の意味が曖昧であると感じる。対象年齢等をしぼって、表現を明確にしたらどうか。 | 「子ども」の表記については、「小学生」など対象が明確に分かるような表記に変更する。 |